

<チャレンジコース>

(1) 児童の実態と本時の目標

本コースのほとんどの児童は計算能力が高いが、式上の数値と図などをつないで説明する力は不十分である。前単元「わり算」や「大きな数」でも式と図をつないで説明する学習を行い、深く理解することができつつある。本時では、2桁に及ぶ繰り下がりの仕組みを計算棒などの教具を使って考えたり、4コマまんがに計算の過程を表現したりすることで、繰り下がりが2桁に及ぶ筆算の形式のよさ（簡潔さ、的確さ）を学ぶことを目標とする。

(2) 学習指導過程

主な学習活動	教師の支援・援助活動
<p>1 前時の652 - 365との違いを話し合うことを通して本時の課題をつかむ。</p> <p>2 302 - 165の筆算の仕方を考える。 (1) 計算棒などの教具を使ったり、図や4コマまんがに表したりして考える。</p> <p>(2) 筆算の仕方を話し合う。</p> <p>3 同じような問題や4位数の筆算、虫食い問題の中から選んで挑戦する。</p> <p>4 本時の学習でわかったことや次時の課題などをノートにかく。</p>	<p>前時の問題との違いを明確にすることで、本時は一の位同士がひけなくて、百の位が空位になっているが、百の位を使えば何とかできそうだという見通しがもてる話し合いにする。</p> <p>まず、筆算として式の上で答えを出してもいいことを伝える。先に答えを求めた児童には、その仕組みが説明できるよう図や4コマまんがに表すように指示する。</p> <p>見通しがうまくもてない児童には計算棒などの教具を位取り板の上で操作してみるように声をかける。</p> <p>評 位取り板の上で、計算棒などを動かして、筆算の仕組みを考えたことをノートに自分なりに表すことができたか。</p> <p>自分なりの図をノートにかいて、説明しようとしている児童を賞賛し、黒板に自分の考えをかくよう指示する。</p> <p>(評価)【考】「(3位数) - (3位数)で、繰り下がりが2桁におよぶ筆算を既習事項をもとに考えることができる」 B：十進位取り記数法の仕組みをもとに、十の位から繰り下げられないときは、百の位から繰り下げることができる。 A：(3位数) - (3位数)で、繰り下がりが2桁におよぶ筆算も既習事項をもとに、自分自身で考えることができるとともに計算棒などを操作しながら、計算の仕方を説明することができる。</p> <p>どんな3位数の減法の問題でも、十進位取り記数法の仕組みを使えば、2位数のときと同じように、正確に答えを求めることができることに気づくよう声をかける。</p> <p>どこかの位に空位ができるときは特に気をつけなければいけないことに気づくよう声をかける。</p> <p>自分で答え合わせができる児童には、解答用紙を渡す。</p> <p>少し筆算の仕組みが理解しにくく悩んでいる児童には、位取り板をもう1度使いながら考えるよう声をかける。</p> <p>筆算の仕方についてのまとめだけでなく、自分のがんばりや友達の表現のいいところ(的確さ)もまとめるよう助言する。</p>